デジタルアーカイブ年表

	デジタルアーカイブ	岐阜女子大学
初期	･フランスのショーヴェ洞窟に人類最初の壁画（約 3 万 2 千年前） ･メソポタミアで粘土板に最古の文字（紀元前 3100 頃） ･エジプトに古代最大のアレクサンドリア図書館創設（紀元前 300 頃） ･紙が中国で発明（105） ･Aby Warburg が、記憶の地図「アトラス・ムネモシュネー」という概念を発表（1924） ･Walter Benjamin が、論考「複製技術時代の芸術作品」を発表（1936） ･Andre Malraux が、「空想の美術館」を発案（1947）	
1960～		1967 年　**総合的な教育資料の収集・記録の開始**（岐大） 映像（写真）音声、反応、文書の収集・記録開始（資料保管の基礎）（後藤・岩田）……行動、音声（文字化）、反応分析（2012 年からのデジタルアーカイブを使った沖縄の学習指導・学力の向上で知の増殖型サイクルに適用） 1969 年　学習システム研究会（TM 研究の発展）SIS-TEM 実践データの収集･保管と実践研究報告（学習システム研究会）
1970～	･ Michael Stern Hart が、保護期間の切れた文献をアーカイブする電子図書館「プロジェクト・グーテンベルク」を創始（1971）	1971 年　CMI システム構築 1971 年　レスポンスのパターン化データの保管（反応曲線の分析・数値データ化） 1971 年　**反応データの蓄積（多量データの処理・蓄積）** 一部を印刷で報告（科研）垣内班 その他映像（行動）、音声、反応、文字などのデータの分析結果等、報告 後に（2012 年～）沖縄の学習指導・学力の向上に適用 1972 年　コンピュータを用いた ItemPool、Bank の開発 （注）文部省　学制百年記念事業教育資料館（オイルショックで中断、1983 年に国立教育研究所で再検討）
1975		1975 年利用目標のコード化 （利用域のキーワードと目標コードで整理・検索） 1976 年　Item の系列化（提示資料の系列化方法） 1976 年　Item バンク（Item が評価されたものに利用） 1977 年　ライブラリー（素材も含めた選定された各種資料の保管） （注）（Library と bank に分けて使っていたが、その後、bank に統一した） 1978 年　川島小学校の CMI システム利用開始 1978 年　**操作言語の収集・管理の開始**（松川、安藤、後藤、興戸等）…2012 年～沖縄の学力の向上で使う 日本語シソーラスのディスクリプタ―整備の開始 1979 年　プレゼンの評価方法（放送文化基金）

デジタルアーカイブ年表

1980～	･全国博物館大会「博物館の情報処理―とりわけコンピュータの導入について」開催（科学技術館）日本博物館協会主催（1981） ･東京国立博物館資料部設置（1982） ･東京国立博物館資料館開館（1984）	1980 年　日本語（漢字）利用のデータベース利用始まる（岐大） 1981 年　**操作言語関連資料の保管**（松川、安藤、後藤、興戸等）（注）（2012 年～2016 年の沖縄の学力の向上に役立て、課題解決処理で使う） 1981 年　**文書（漢字処理）図形、素材およびフィルム等のデータベースで管理開始**（岐大） （メタデータの検討（客観的データに対し、主観が一部入ったデータの検討）） 1981 年　**日本語文献データベースへの保管開始**（岐大） （シソーラス、データベースの開発） 1983 年　辞書データベースを用いた日本語シソーラスの構成 1983 年　（国立教育研究所の教育情報センターの検討開始、木田所長、オイルショックで中継していた学制百年記念事業「日本教育会館」の再検討） 1984 年　**木田宏国研所長の資料収集の開始** （後の木田宏教育資料オーラルヒストリーDA） （1984 年教育工学シソーラスの開発（深谷哲））
1985～	･国際図書館連盟(IFLA)美術図書館分科会ヨーロッパ集会「画像資料と図書館」（美術・歴史博物館,スイス・ジュネーブ）（1985） ･大和文華館が、美術研究にコンピュータ導入（1985） ･IFLA 東京大会開催（1986） ･日仏美術学会「美術研究と情報処理―コンピュータによる画像・文献処理はどこまで可能か」（日仏会館）（1986） ･美術史学会「美術史研究とコンピュータ」（東京芸術大学）（1987） ･シンポジウム「博物館情報システムの現状と展望」開催（国立歴史民俗博物館）（1988） ･「国立の博物館・美術館資料に関する情報交換のためのプロトコル研究」（東京国立博物館など）（1988） ･「文化財赤十字構想」に基づく（財）文化財保護・芸術研究助成財団設立（理事長：平山郁夫）（1988） ･アート・ドキュメンテーション研究会（JADS）発足（1989） ･情報処理学会「人文科学とコンピュータ研究会（じんもんこん）」発足（1989） ･欧州プロジェクト「EROS」開始（フランス美術館修復研究センター：C2RMF）（1989）	（1987 年　婦人教育シソーラス 国立婦人教育会館） 1989 年　伝統的工芸品（図形等）データベース開発（熊崎康文）

デジタルアーカイブ年表

1990	･JADS 講演会「フランスにおける画像ドキュメンテーションとニューメディア」開催（ミシェル・ムロ氏）（1 月） ･JADS パネルディスカッション「美術資料・情報の共有化―ネットワーク化とアート・ドキュメンテーション研究会」開催（6 月） ･欧州プロジェクト「NARCISSE」開始（C2RMF）	（国立婦人教育会館、婦人教育シソーラス第 2 版出版）
1991		・日本の文化、産業、自然に関するデータベースの開発 ・SIS-TEM V の構成 （学習システム研究会の S=S-Tem を処理システム名にした）
1992	･国立西洋美術館に絵画データベース納入（凸版印刷）（6 月） ･「文化財の画像データベース研究　岐阜大会」開催（岐阜県美術館）（10 月）	・教育工学文献検索のための索引語（大阪大、岐阜大） ・双方向型衛星通信を利用した研修 ・マルチメディアの教育利用と学習指導
1993	･シンポジウム「美術館と画像データベース」開催（横浜美術館）（2 月） ･JADS 講演会「フランスにおける美術品の画像データベースの現状と将来」（ジャン＝ルイ・パスコン氏）（9 月） ･「ハイビジョン画像データベース研究　岐阜大会」（岐阜県美術館）（9 月）	・地域資料マルチメディア素材データベース開発 ・文字、音声、映像資料の素材データベース ・CD-ROM での流通
1994	･月尾嘉男が、「デジタルアーカイブ」という和製英語をつくる。 ・「情報ハイウェイにおける人文科学と芸術」開催（米国）（7 月） ･JADS フォーラム・シンポジウム「ミュージアム・ライブラリ・アーカイヴをつなぐもの」（国立国会図書館）（11 月） ・「世界の文化を未来に継承するデジタルアーカイブ国際会議」開催（12 月） ・「パイロット電子図書館システム実証実験」開始（IPA・国立国会図書館など）	・木田宏オーラルヒストリー用の資料整理開始 ・学習システム研究会（代表　森幸雄）岐大と連携し、地域資料等利用の許可を得る。（教育利用等の流通は学習システム研究会担当・許可）
1995	･フォトメディアセッション「画像データベースとインターネット」開催（成安造形大学）（8 月） ･Web サイト人文系リンク集「アリアドネ（http://ariadne.ne.jp/）」公開（10 月） ・「デジタルアーカイブ国際会議´95」開催（11 月） ・「石川新情報書府構想」策定（石川県） ・「G7 電子博 物館・美術館構想」（EC） ・博物館資料の記述指針「IGMOI」制定	・輪中を主とした地域資料の収集と流通（横井等） ・高知市自由民権会館の自由民権に関する映像資料データベース開発（竹崎澄子） **・木田宏オーラルヒストリー（第 1 回）記録（岐大）平成 7 年 11 月記録開始** ・外来種野草（校庭）の映像記録 **・岐阜県長良川（大日岳から河口まで）の映像記録（後の岐阜女子大学等での長良川の水文化へ発展）** ・（マルチメディアの発展に対応した文教施策の推進について　文部省）

デジタルアーカイブ年表

1996	・「デジタルアーカイブ有識者座談会」（平山郁夫、月尾嘉男、内山昭太郎、山本卓眞）（2 月） ・シンポジウム「美術館と画像データベース」開催（横浜美術館）（2 月） ・JADS 講演会「インターネットと美術情報―その現状と未来」開催（東京国立博物館）（6 月） ・JADS 研究会「ミュージアムにおけるインターネットの活用―事例報告・インタビュー」開催（東京国立博物館）（6 月） ・JADS 研究会「インターネットと美術情報」開催（インターメディウム研究所）（8 月） ・鹿島美術財団美術講演会「美術史学とデジタル画像」開催（11 月） ・「国際電子博物館会議 ELECTRA´96」（オスロ会合）JDAA 参加（3 月） ・「デジタルアーカイブ推進協議会（JDAA）」設立（4 月） ・JDAA 発足イベントの開催（銀座電通ギャラリー展示）（5 月） ・Web サイト「共通索引（試行版）」公開（11 月） ・「デジタルアーカイブ in CANBERRA（豪州）」JDAA 参加（11 月） ・インターネットのライブラリー構築のための非営利組織「The Internet Archive」設立（米） ・欧州プロジェクト「VISEUM」開始（C2RMF）	・木田宏オーラルヒストリー記録と関連資料の保管開始（平成 18 年 5 月、9 月、11 月） ・マルチメディア映像素材の共同利用の展開 ・各地域の地域資料収集・記録（岐大、学習システム研究会）
1997	・「デジタルアーカイブ国際会議´97」開催（東京国立博物館別館講堂）（1 月） ・「デジタルミュージアム 電脳博物館?博物館の未来」開催（東京大学総合研究博物館）（1 月） ・シンポジウム「美術館と画像データベース」開催（横浜美術館）（2 月） ・JDAA 季刊広報誌「デジタルアーカイブ」創刊（3 月） ・「デジタルアーカイブ国際シンポジウム in GIFU」開催（5 月） ・「JDAA 博物館・美術館アンケート調査」実施（6 月）（報告書発行・9 月） ・JADS 研究会,シンポジウム「フランスにおける美術情報の普及と専門教育」開催（日仏会館）（6 月） ・インターネットの電子図書館「青空文庫」発信（8 月） ・JADS 研究会「欧米における博物館情報管理と電子博物館の動向」開催（インターメディウム研究所）（9 月） ・シンポジウム「文化財情報システムシンポジウム」開催（パシフィコ横浜）（9 月） JADS 研究会「米国における美術情報へのインターネット利用」開催（大阪樟蔭女子大学）（11 月） ・「JDAA Web サイト」開設（http://www.jdaa.gr.jp）（12 月） ・「デジタルアーカイブ国際会議 in 奈良」開催（奈良県新公会堂）（12 月）	・伝統工芸、木材加工等のデータベースの開発始まる。 ・映像、音声、図形、文字資料のデータベースの開発と利用開始

デジタルアーカイブ年表

1998	・「国立国会図書館電子図書館構想」策定（2 月） ・シンポジウム「美術館と画像データベース」開催（横浜美術館）（2 月） ・「先導的アーカイブ映像制作支援事業」開始（4 月） ・「視覚芸術に関する電子画像国際会議（EVA・GIFU´98）」開催（4 月） ・「立命館大学アート・リサーチセンター」設立（6 月） ・JADS 研究会「美術館の画像提供：その今日的課題を考える」開催（東京国立博物館）（6 月） ・「第 1 回 デジタルアーカイブ権利問題ワークショップ」開催（千代田放送会館）（10 月） ・「デジタルアーカイブ権利問題ガイドライン（案）」発行（10 月） ・「（株）イメージモールジャパン（凸版印刷、日立製作所、朝日新聞の 3 社合弁）」設立（10 月） ・シンポジウム「ディジタル・アレキサンドリア第 1 回国際シンポジウム」開催（江戸東京博物館）（12 月） ・「デジタルアーカイブ国際会議´98 in 京都」開催（国立京都国際会館）（12 月） ・欧州プロジェクト「ACOHIR」開始（C2RMF）	・木田宏オーラルヒストリー記録 （平成 10 年 1 月） ・遠隔教育とマルチメディアデータベースの利用 （遠隔教育の学修支援のための教材・学習材、素材、学生の研究資料等の管理についての検討）
1999	・シンポジウム「美術館と画像データベース」開催（横浜美術館）（2 月） ・JADS 研究会「美術館ライブラリーおよびアーカイブの現状とその展望・課題をめぐる問い」開催（東京国立博物館）（2 月） ・JADS 研究会「美術館情報システムのパッケージングを考える」開催（東京国立博物館）（5 月） ・JADS パネルディスカッション「日本の電子ネットワークにおける美術系サイトの意義と今後の課題」（成安造形大学）（6 月） ・展覧会「記憶された身体―アビ・ヴァールブルクのイメージの宝庫」開催（国立西洋美術館）（7 月） ・東京国立博物館法隆寺宝物館　開催記念シンポジウム「博物館・美術館におけるマルチメディアの活用」（7 月） ・「（株）DNP アーカイブ・コム」設立（10 月） ・JDAS フォーラム「美術情報の明日を考える」開催（国立西洋美術館）（11 月） ・「デジタルアーカイブにおける権利とは 権利問題ガイドライン（案）簡易版」JDAA 発行（12 月） ・欧州プロジェクト「CRISTAL」開始（C2RMF）	**1999 年 10 月** **・文化情報研究センター計画** **・デジタルミュージアム計画（デジタルアーカイブ）** （通信衛星と通信ネットワークを利用した遠隔教育整備開始）代表．木田宏 **・岐阜女子大学　地域文化資料の収集・保管開始**

デジタルアーカイブ年表

2000	・シンポジウム「美術館と画像データベース」開催（ソフトピアジャパン）（2 月） ・JADS 研究会「美術品デジタルアーカイブのシステム開発と運用」開催（大阪樟蔭女子大学）（2 月） ・「第 2 回 デジタルアーカイブ権利問題ワークショップ」開催（青山・TEPIA プラザ）（3 月） ・JADS 研究会「画像資料のコンピュータ分析にむけて」開催（国際日本文化研究センター）（4 月） ・JADS 年次大会「美術館情報の新時代」開催（東京国立博物館）（6 月） ・「京都デジタルアーカイブ研究センター」設立（京都市）（8 月） ・「EVA-GIFU2000」開催（大垣市ソフトピアジャパン）（10 月） ・じんもんこん 2000 シンポジウム「デジタルアーカイブ?21 世紀へ持っていくもの」開催（立命館大学）（12 月） ・シンポジウム「フィルム・アーカイブの仕事：再定義」開催（東京国立近代美術館フィルムセンター）（12 月） ・Uffizi Gallery の「DADDI プロジェクト」開始（伊） ・欧州プロジェクト「ARTISTE」開始（C2RMF）	**・文化情報研究センター開所(4 月)** **・デジタルミュージアム開始** ・地域資料のデジタルアーカイブ化に関する基礎研究 ・ユネスコ世界遺産白川郷 DA 開発 ・古い町並み ～高山市三町伝統的建造物群保存地区の記録～ ・飛騨民俗村(飛騨の里)　民話収録　語り部：種蔵泰一氏 ・西米良村所神楽 DA 開発 ・和田家当主　和田正美氏オーラルヒストリー ・岐阜県内博物館資料（バーチャルミュージアム） 地域資料デジタルアーカイブ化協議会（11 月）
2001	・「でじたる日本の色?ContentJapan＆新映像フォーラム 2001」開催（青山・TEPIA プラザ）（3 月） ・「第 3 回デジタルアーカイブ権利問題ワークショップ」開催（千代田放送会館）（3 月） ・「デジタルアーカイブ〈権利問題と契約文例〉」JDAA 発行（3 月） ・「デジタルアーカイブ白書 2001」JDAA 発行（3 月） ・「京都デジタルアーカイブ研究センター設立 1 周年記念シンポジウム」開催（キャンパスプラザ京都）（8 月） ・「故宮文化資産デジタル化応用研究所」活動開始（8 月） ・The Internet Archive が Web サイトアーカイブ「Wayback Machine」を公開（米）（10 月） ・JADS 研究会「美術印刷とデータベース構築から―デジタルアーカイブと館蔵品閲覧システムへ」開催（岡村印刷工業）（10 月） ・JADS 研究会「コレクションのマネージメントを語る―現場からの報告：収蔵品の情報管理の現状と課題」開催（慶應義塾大学）（11 月） ・「デジタル技術とミュージアム?情報・機器展示,セミナーによる公開プログラム」開催（国立西洋美術館）（11 月） ・Web サイト「アジア歴史資料センター」開設（11 月） ・じんもんこん 2001 シンポジウム「デジタルアーカイブ?21 世紀にあるべき情報資源の共有と活用とは」開催（大阪市立大学学術情報総合センター）（12 月） ・「日本研究学術資料情報の利用整備に関する国際会議」開催（国際文化会館）（12 月） ・欧州プロジェクト「CRISATEL」、「CHERI」開始（C2RMF）	・いにしえの美濃と飛騨　岐阜県博物館特別展示 DA 開発 ・サイエンスワールド　サイエンスショーDA 開発 ・谷汲踊りデジタルアーカイブ ・谷汲巡礼街道 DA 開発 ・CS とテレビ会議システムで（岐阜、新潟、北海道講座等） ・NPO まちづくり IT 講習支援事業

デジタルアーカイブ年表

2002	・「Digital Content Japan 2002 創造とビジネスのコラボレーション?動き出したコンテンツ新市場」（青山・TEPIA）（3 月） ・国立西洋美術館研究資料センターオープン（3 月） ・「デジタルアーカイブ白書」Web 公開（JDAA）（4 月） ・「東京国立博物館所蔵作品のデジタル画像」委託販売開始（4 月） ・国立国会図書館が「インターネット資源選択的蓄積実験事業（WARP）」開始（4 月） ・文化資源学会設立（6 月） ・「EVA-GIFU2002」開催（大垣市情報工房・スインクホール）（11 月） ・研究会「情報社会と archives―図書館・博物館・文書館をめぐって」開催（国文学研究資料館史料館）（12 月） ・じんもんこん 2002 シンポジウム「情報資源の共有・活用とグローバルコラボレーション」開催（大阪市立大学学術情報総合センター）（12 月）	・木田宏教育資料 9 発行 ・長良川水文化 DA 作成業務 ・長良川空中撮影 DA 開発 ・わんぱく村　長良川下り DA 開発 ・南宮大社　天井絵 DA 開発 ・国・重要無形民俗文化財　古川祭　起し太鼓　撮影 ・米国公文書館―日本関係資料について―　講演：菊川健氏（6 月） ・岐阜県の若人とハンガリー・チェコ大使との交流（10 月） ・NPO まちづくり IT 講習支援事業 ・地域文化資料管理のためのメタデータの構成
2003	・「NHK アーカイブス」開設（2 月） ・シンポジウム「美術館と画像データベース」開催（千葉市文化センターホール）（2 月） ・「NHK アーカイブス」開設（2 月） ・「デジタルアーカイブ白書 2003」JDAA 発行（3 月） ・「デジタルアーカイブ権利と契約の手引き 契約文例＋Q&A 集」JDAA 発行（4 月） ・フィルムセンター初のデジタル復元を試みた作品「斬人斬馬剣（ざんじんざんばけん）」公開（5 月） ・Web サイト「Wonder 沖縄」公開（6 月） ・「国立科学博物館 産業技術史資料情報センター」開設（6 月） ・JADS 研究会「記録の長期・安全保全の実現を目指して―これからの電子アーカイブを考える」開催（富士写真フイルム）（8 月） ・JADS 研究会「歴史資料のデジタルアーカイブ―画像資料を研究活用するための支援アプリケーション〔iPalletnexus〕（イパレットネクサス）を中心に」開催（堀内カラー）（9 月） ・JADS 研究会「デジタルアーカイブをどう活かす―これからのミュージアム情報発信」開催（仙台サンプラザ）（10 月） ・「第 1 回 DAJA セミナー」開催（大垣市ソフトピアジャパンセンター）（10 月） ・LIPER・アート・ドキュメンテーション研究会研究集会「美術館・博物館、文書館の情報専門職制の開発と養成－現状と課題」（慶応義塾大学）（11 月） ・シンポジウム「デジタル・アート・アーカイヴへの展望―資料記述をめぐって」開催（慶應義塾大学）（12 月） ・じんもんこん 2003 シンポジウム「デジタルアーカイブ?情報資源の活用と共有の深化をめざして」開催（国立歴史民俗博物館）（12 月）	・木田宏教育資料 10～15 ・「坂内村の祭り」DA 開発 ・「ふるさとアーカイブ」データベースシステム作成業務 ・岐阜ミュージアムデータ管理業務 ・「岐阜ミュージアム」コンテンツ作成及びデータベース入力業務 **・長良川水文化 DA 開発** ・宇佐神宮 DA 開発 ・デジタルコンテンツの流通・共同利用の記録項目 ・自然体験活動のデジタルアーカイブ化

デジタルアーカイブ年表

2004 H16 年	･講習会＆交流会「デジタルアーカイブで文化都市愛知を PR！」開催（名古屋市 東桜会館）（1 月） ･「国立国会図書館ビジョン 2004」及び「国立国会図書館電子図書館中期計画 2004」策定（2 月） ･「京都デジタルアーカイブ研究センター」解散（3 月） ･山中湖情報創造館･開館記念セミナー「未来をつくる地域図書館」開催（山梨県 徳富蘇峰館ホール）（3 月） ･「デジタルアーカイブ白書 2004」JDAA 発行（3 月） ･Web サイト横断検索「ALC（Art Libraries' Consortium）」公開（美術図書館連絡会）（3 月） ･日本アーカイブズ学会設立（4 月） ･「文化遺産オンライン（試験公開版）」開始（4 月） ･シンポジウム「国内外の建築アーカイブの現状?建築アーカイブネットワーク構築にむけて」開催（建築会館ホール）（7 月） ･JADS 国際シンポジウム「東アジアにおける美術・文化財情報のネットワーク化を考える」開催（兵庫県立美術館）（8 月） ･Google 「図書館プロジェクト」絶版書籍全文のデジタル化を発表（10 月） ･「デジタルアーカイブセミナー八戸」開催（八戸ユーロリー）（10 月） ･「Hakodadigital 2004 地域デジタルアーカイブ推進フォーラム」開催（函館ハーバービューホテル）（11 月） ･研究会「芸術と記録―アート・ドキュメンテーションはどこまで可能か」開催（駿河台大学）（11 月） ･じんもんこん 2004 シンポジウム「デジタルアーカイブ?デジタル学術情報資源の共有と活用」開催（立命館大学衣笠キャンパス）（12 月） ･NTT ICC 記録映像のデジタルアーカイブ「HIVE」開設	**･文部科学省　現代 GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）選定　デジタル・アーキビストの養成(平成 16 年度～平成 18 年度)** ・デジタル・アーキビストの養成カリキュラム ・木田宏教育資料オーラルヒストリーDA 化 6 月 27,28 日 ・第 1 回『日本の美と技を求めて』人形遣い三世桐竹勘十郎の妙技 DA 化 ・長良川水文化デジタルアーカイブ作成業務 ・巻物の記録　伊奈波神社縁起巻物（県重要文化財）DA 開発 ・南宮大社（国重要文化財）DA 開発 ・郡上踊り（国無形文化財）DA 開発 ・建築物の記録　宇佐神宮八幡造り DA 開発 ・歴史資料の記録（北海道開拓の村）DA 開発 ・沖縄の文化活動の記録（沖縄の歴史および文化資料）DA 開発 ・宜野湾市青年エイサー祭　撮影 ・普天間獅子舞　撮影 ・琉球舞踊　撮影 岐阜女子大学オープンカレッジ　『日本の美と技を求めて』　人形遣い三世桐竹勘十郎の妙技の鑑賞と抱負を聞く（7 月 10 日） ・岐阜女子大学文化創造学部設置記念講演「創造性の見方と伸ばし方」(岐阜女子大学客員教授　松原達哉)（12 月）
2005	･「新潟デジタルアーカイブシンポジウム」開催（朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター）（2 月） ･シンポジウム「現代の情報化社会が必要としている能力?デジタル・アーキビスト養成」開催（岐阜県女子大学文化情報センター）（3 月） ・国立美術館 4 館の総合目録を「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム（試行版）」として Web 公開（3 月） ・シンポジウム「日藝アート・アーカイブを考える」開催（日本大学）（3 月） ・JADS シンポジウム「コレクション・ドキュメンテ－ションの系譜を定着させるために―日本のミュージアムの中での使命と技術を考える―」開催（慶応義塾大学）（3 月） ・「デジタルアーカイブ白書 2005」JDAA 発行（3 月） ･国立公文書館の約 180 万画像が「デジタルアーカイブ」と表示され Web 公開（4 月） ･衛星 3D 地図ソフト「Google Earth」開始(6 月) ･「デジタルアーカイブ推進協議会」(JDAA)解散（6 月） ･JADS 年次大会「第三世代のアート・ドキュメンテーション」開催（駿河台大学）（6 月）	・GP　デジタル・アーキビストの養成 **・木田宏教育資料デジタルアーカイブ** **木田先生を偲ぶ会で DVD と冊子を配布** ・デジタル・アーカイブ人材育成講習会 ・長良川水文化デジタルアーカイブ作成業務 ・長滝白山神社境内周辺・「延年の舞」DA 開発 ・中尊寺撮影・毛越寺「延年の舞」撮影（岩手） ・白山神社・白山神社秋の大祭（京都）DA 開発 ・壇王法林寺・西壽寺（袋中上人） ・福島県いわき市　じゃんがら念仏踊り　撮影 ・平泉寺白山神社（福井）DA 開発 ・宜保榮治郎氏　沖縄エイサーオーラルヒストリー ・エイサー（沖縄）DA 開発 ・白山比咩神社（金沢）DA 開発 ・小樽・札幌（北海道）DA 開発 ・名鉄岐阜路面電車　市内線　撮影 ・「デジタル・アーキビストの養成」フォーラム（3 月） ・第 2 回『日本の美と技を求めて』義太夫三味線(演奏)鶴澤清治（10 月）

	・「日本美術情報センター」設立（9 月） ・東京国立博物館「ミュージアム資料情報構造化モデル」発表（11 月） ・シンポジウム「歴史文化財のリスクマネイジメントとネットワークを考える」開催（江戸東京博物館）（11 月） ・じんもんこん 2005 シンポジウム「デジタルアーカイブ?その理念の深化と技術の応用」開催（東京大学鉄門記念講堂）（12 月）	・日米比較文化・比較文学講座（文化情報研究センター）齋藤襄治・亀井俊介 ・デジタル・アーキビスト現地講習会（高山）（2 月） ・デジタル・アーキビスト養成研修講座（郡上）、（大垣） ・ICTE 情報教育セミナーin 岐阜 ・高大連携　岐阜県岐阜各務野高等学校デジタル・アーカイブ実習 ・高校生を対象としたデジタル・アーカイブ学習-デジタル・アーキビスト実習　体験学習 ・岐阜各務野高等学校デジタル・アーカイブ実習補助 **・1976 年～1981 年の学習システム関係刊行物のデジタル化開始（後に沖縄の学習指導・学力の向上に使う）**
2006	・湯川秀樹のノーベル賞受賞論文などをデジタルアーカイブ(JST).(3 月) ・DARC シンポジウム「アーツ・アーカイヴのいま」開催（慶應義塾大学）（2 月） ・シンポジウム「伝統文化のアート・アーカイブについて考える」開催（日本大学）（4 月） ・JADS シンポジウム「ミュージアム・ドキュメンテーションの新時代―新しい風は、いつだって、西から吹いて来る」開催　（九州国立博物館）（6 月） ・JHK セミナー「持続可能なデジタル・アーカイブ構築へのビジョン―地域情報拠点としての公共図書館を核とした取組みの可能性について―」開催（日本教育会館）（7 月） ・「アート・アーカイヴ資料展」開催（慶應義塾大学）（11 月） ・図書館総合展・講演「日本のデジタル・アーカイブ：その現状と今後の展望(国立公文書館)」（パシフィコ横浜）（11 月） ・「デジタルアーカイブシンポジウム：美術館・博物館・公文書館・図書館の連携について」開催（慶應義塾大学）（11 月） ・「ルーブル DNP ミュージアムラボ」開設（大日本印刷）（12 月） ・シンポジウム「アートアーカイブズ専門職の未来を拓く」開催（学習院大学）（12 月） ・研究会「美術館・博物館における情報化を考える」（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）　（12 月） ・じんもんこん 2006 シンポジウム「文化情報学のパースペクティブ―デジタルアーカイブへの新地平―」開催（同志社大学）（12 月）	**・NPO 法人日本デジタル・アーキビスト資格認定機構　設立** ・デジタル・アーキビストの要請と学芸員、図書館司書等の人材育成 ・世界遺産白川郷他で現地講習会を開催 ・長滝白山神社「でででん祭り」撮影・長滝白山神社撮影・若宮修古館撮影 ・久米村の中国と沖縄の文化交流についての聞き取り調査（「久米村の歴史」オーラルヒストリー　具志堅以徳） ・世界遺産白川郷和田家 DA 開発 ・白川郷　春駒　撮影 ・郡上おどり DA 開発（多方向撮影） ・沖縄県久米村に関する DA 教材資料調査 ・毛越寺　二十日夜祭　撮影 ・デジタル・アーキビスト資格講座　開講 現地講習（沖縄他）を行う ・デジタル・アーキビスト資格試験講習会・試験 ・デジタル・アーキビスト一種、二種資格研修会 ・デジタルアーカイブ・コーディネータ講習会（岐阜県博物館） ・夏のデジタル・アーカイブ研修会 ・大垣商業高等学校 DA 講習会 ・高大連携　岐阜県岐阜各務野高等学校デジタル・アーカイブ実習

デジタルアーカイブ年表

2007	・シンポジウム「知の構造化と図書館・博物館・美術館・文書館―連携に果たす大学の役割」開催（東京大学）（2 月） ・JADS 研究会「日本のＭＬＡとアート・ドキュメンテーション―教育・研修のあり方を考える」開催（東京国立博物館）（3 月） ・JADS シンポジウム「発現するドキュメンテーション―蓄積と検索から表現へ」開催（国立新美術館）（6 月） ･NASA がインターネット・アーカイブと提携し、歴史的画像をデジタル化(8 月) ・日仏美術学会シンポジウム「オウィディウス・挿絵・アーカイブ・・・デジタル時代の図像学を考える」開催（日仏会館）（9 月） ･国立国会図書館が約 800 万件検索できるデジタルアーカイブポータル「PORTA」開始(10 月) ・イタリアの HAL9000 社が、レオナルド・ダ・ヴィンチ作《最後の晩餐》を高精細画像で公開（10 月） ・ワークショップ　博物館・美術館・公文書館・図書館の連携「MLA＋L　デジタルアーカイブの連携とその可能性」開催（慶應義塾大学）（11 月） ・SIGDD シンポジウム 2007「知・情・意のイマージュ（発現）：ドキュメントの流儀」（日立製作所）（11 月） ・じんもんこん 2007 シンポジウム「デジタルアーカイブと時空間の視点」開催（京都大学）（12 月）	**・文部科学省委託事業（社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業“社会人のためのデジタル･アーキビスト教育プログラム”）（平成 19 年度～平成 21 年度）** ・岐阜県高山市　春の高山祭「山王祭」撮影 ・創作ダンス 16 方向デジタル・アーカイブ撮影 ・おもしろ紙おもちゃ 16 方向アーカイブ撮影：水野政雄 ・富山県五箇山　菅沼合掌集落・相倉合掌集落・麦屋まつり・こきりこ祭りアーカイブ DA 化 ･中国福州 DA 調査（中国福州市　琉球人墓地　萬壽橋　福州琉球館　福建省博物館等） ・当主が語る文化遺産の重要性（文化財学）長瀧白山神社の宮司が語る「白山文化」　若宮多門宮司 DA 化 ・当主が語る文化遺産の重要性（文化財学）白川郷和田家の当主が語る「世界遺産白川郷」　和田正人先生 DA 化 ・劇団「はぐるま」撮影 ・デジタル・アーキビスト講習会(岐阜) ・準デジタル・アーキビスト講習会(大阪)、(岐阜)、(静岡) ・デジタルアーカイブ・コーディネータ講習会(富山)、(岐阜) ・おもしろ紙おもちゃ教室（水野政雄先生）
2008	・東京大学 21 世紀 COE シンポジウム「デジタルアーカイブの「標準化」に向けて　～次世代アーカイブとユビキタス技術が拓く未来」（東京大学）（1 月） ・公開研修会「ミュージアム情報の制作・管理・活用」開催（東京国立博物館）（2 月） ・シンポジウム「デジタル映像アーカイブズの可能性―大学ミュージアム=アーカイブズを考える III―」開催（慶應義塾大学）（3 月） ・「文化遺産オンライン」正式公開（文化庁）（3 月） ･英 Times が、1785 年から 1985 年までの 200 年間紙面をデータベース公開（6 月） ・JADS シンポジウム「物語るアート・ドキュメンテーション」開催（京都国際マンガミュージアム）（6 月） ・NCC シンポジウム 「ジャパン・イメージ―海外日本研究のための画像利用事情―」開催（国際文化会館講堂）（6 月） ･欧州の電子図書館「Europeana」公開（11 月） ・じんもんこん 2008 シンポジウム「サービス指向のデジタル技術へ～人文科学のポテンシャル」開催（筑波大学）（12 月）	**・文部科学省委託事業　組織的な大学院教育改革推進プログラム“実践力のある上級デジタル･アーキビスト育成（”平成 20 年度～22 年度）** **・位置、方向、時刻（GPS）、地図などの位置情報のメタデータ項目をもつデータベースの構成** ・地域の歴史や伝統文化の理解と継承のための特別講演およびシンポジウム（講師、佐々木正峰（元文化庁長官）、藤里明久（毛越寺執事長） ・伝統文化“獅子舞”DA 化 ・五箇山　こきりこ　撮影 ・長良川花火大会　撮影 ・第 3 回『日本の美と技を求めて』舞台美術家　朝倉摂氏（12 月） ・文部科学省現代 GP　報告会　文化の創造とデジタル・アーキビスト（11 月） ・社会人のためのデジタル・アーキビスト資格取得講座 ・デジタルアーカイブ・コーディネータ講習会(新潟)、(山形) ・準 DA 講習会(岐阜)、(大阪)、(東京)、(沖縄)、(岐阜)、(香川)、(岐阜)、(静岡)、(福岡)、(大阪)、(北海道)

デジタルアーカイブ年表

2009	・DMC 機構シンポジウム「パブリック・ドメイン収蔵品資料の活用へ向けて ―美術館・博物館収蔵の映像資料のフェア・ユースを考える」開催（慶應義塾大学）（1 月） ・「第 1 回日本文化デジタル･ヒューマニティーズ国際シンポジウム」開催（立命館大学）（2 月） ・ワークショップ「2009 デジタルヒューマニティーズ・ワークショップ」開催（東京大学）（3 月） ・JADS シンポジウム『展覧会カタログ総覧』刊行記念「いま、あらためて展覧会カタログを見直す」開催（和光大学）（3 月） ・JADS シンポジウム「アート・コンテンツのデータベース化を楽しむ」開催（立命館大学）（6 月） ・IRI フォーラム「日本の MLA 連携の方向性を探るラウンドテーブル」開催（鹿島建設）（10 月） ・国立歴史民俗博物館公開研究会「デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究」開催（国立歴史民俗博物館）（10 月） ・全国美術館会議セミナー「美術情報・資料の活用法―展覧会カタログから Web まで」開催（東京国立博物館,国立西洋美術館）（11 月） ・「ICOM-ASPAC（アジア太平洋地域連盟）日本会議 2009」開催（国立科学博物館）（12 月） ・JADS シンポジウム「日本のアート・ドキュメンテーション－20 年の達成　MLA 連携の現状，課題，そして将来 M(useum)，L(ibrary), A(rchives)」開催（東京国立博物館）（12 月） ・情報処理学会・じんもんこん 2009 シンポジウム「デジタル・ヒューマニティーズの可能性」開催（立命館大学）（12 月）	・長良川鵜飼 DA 化 ・白鳥　拝殿踊り DA 化 ・白川郷　どぶろく祭り撮影・記録、放水訓練撮影 ・獅子舞 ・奈良手向山八幡宮　調査・撮影 ・ヒトツバの DA ・白川村（木村美乃里氏）オーラルヒストリー ・沖縄空手　撮影 ・高山・白川郷・五箇山現地演習 ・社会人のためのデジタル・アーキビスト資格取得講座(岐阜)×2 ・社会人のための準デジタル・アーキビスト資格取得講座（長野)、(沖縄)、(静岡)、(埼玉)、(岐阜）×2、(山形) ・デジタル・アーキビスト教育講座 ・世界遺産“五箇山”の文化財のデジタルアーカイブの映像・位置・情報の記録 ・映像記録のサンプリング処理と分析（行動） ・岐阜城跡　信長公居館発掘調査　記録開始
2010	・改正著作権法が施行され、国立国会図書館において、資料の保存を目的としたデジタル化を著作権者の許諾なく行うことが可能となる。昭和前期刊行図書、雑誌、官報、博士論文等のデジタル化を開始。（国立国会図書館） ・主として公的機関のウェブサイト上の資料を著作物単位で抽出して保存、提供する「インターネット資料収集保存事業（著作別）」のサービスを開始。（国立国会図書館） ・「近代デジタルライブラリー」で著作権処理前のデジタル化資料の館内提供を開始。（国立国会図書館）	・沖縄サテライト校設置（沖縄女子短期大学と姉妹校提携を結ぶ） ・沖縄各地域の DA 化 ・ユネスコ無形文化遺産・沖縄「組踊」のデジタル・アーカイブ化 ・デジタル・アーカイブ「わらべ歌の撮影記録」 ・電子教科書研究会 ・近江八幡　町並み撮影 ・仲本實先生オーラルヒストリー撮影 ・紙おもちゃ教室 ・デジタル・アーキビスト資格取得講座(岐阜他) ・準デジタル・アーキビスト資格取得講座(東京)、(岐阜)×4、(大分)、(大阪)、(沖縄) ・世界遺産とミュージアムで学ぶフランス研修 ・高山白川郷現地演習 ・デジタル・アーキビスト講習会 2010in 沖縄 ・立体スキャナー、全方位映像、GPS 等を用いた植物のデジタルアーカイブ化 ・岐阜城跡　信長公居館発掘調査 平成２１年度調査結果 WEB サイト公開

デジタルアーカイブ年表

2011	「国立国会図書館デジタル化資料」で歴史的音源を提供開始。（国立国会図書館） 「国立国会図書館デジタル化資料」で雑誌を提供開始。（国立国会図書館） 「国立国会図書館デジタル化資料」で新聞（現・石巻日日新聞）を提供開始（国立国会図書館）	**・沖縄修学旅行おぅらい冊子刊行とデジタルアーカイブの連携利用** ・おぅらいデジタルアーカイブ公開（試作） ・海野ハーリー撮影　・カンカラ三線の撮影 ・仲本實先生オーラルヒストリーDA 化 ・戦中・戦後のオーラルヒストリー研究～祖父の足跡を辿る撮影記録～ ・沖縄・大綱引き DA 開発 ・カリキュラム開発研究セミナー（講演：梶田叡一） ・紙おもちゃづくり親子教室 （デジタルアーカイブの新しい展開） ・岐阜城跡　信長公居館発掘調査 平成２２年度調査結果 WEB サイト公開
2012	・公立図書館への歴史的音源の配信提供サービス開始。（国立国会図書館） ・「国立国会図書館デジタル化資料」で博士論文を提供開始。（国立国会図書館） ・「国立国会図書館デジタル化資料」で憲政資料を提供開始（国立国会図書館） ・デジタルアーカイブの構築・連携のためのガイドライン２０１２年３月２６日総務省 ・知のデジタルアーカイブ ―社会の知識インフラの拡充に向けて― 提言　２０１２年３月３０日 知のデジタルアーカイブに関する研究会	・金環日食の撮影（沖縄、岐阜、高山） ・金星の日面通過の撮影（沖縄、岐阜） ・講演「沖縄戦体験者による戦中・戦後の沖縄について」仲本實先生オーラルヒストリー撮影 ・沖縄現地演習(講演会)歴史文化遺産の復元と資料（高良倉吉氏）DA 化 ・岐阜県下呂市　六所神社天井画 DA 開発 ・わらべ歌のデジタルアーカイブ（集合資料） ・オーラルヒストリー　亀井俊介パーソナル学問史の記録第１期　１～３ ・デジタルアーカイブ研究会 ・木田宏教育資料研究報告会 ・デジタルアーカイブ研究会（発表） **（デジタルアーカイブを使い沖縄の学力向上の研究始める）** ・デジタルアーカイブを用いた課題解決（1978 年～1981 年の資料）、知的創造サイクルの処理開始（1967 年～1981 年の資料を利用）後藤
2013	・改正著作権法が施行され、国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、入手困難な資料を図書館等に送信することができるようになる。（国立国会図書館） ・「国立国会図書館デジタル化資料」で日本占領関係資料を提供開始（国立国会図書館） ・「国立国会図書館デジタル化資料」のインターネット資料のコレクションにオンライン資料収集制度で収集した電子書籍、電子雑誌等を追加して提供開始（国立国会図書館）	**・沖縄修学旅行おぅらい冊子再改訂版発行(その後毎年改定)** ・講演「亀井俊介研究序説」平石貴樹、対談：平石貴樹、亀井俊介 オーラルヒストリー　亀井俊介パーソナル学問史の記録　第２期　１～３ （沖縄の学力の向上）……分析結果から手引き等作成（長尾順子等） **・デジタルアーカイブを用いた課題解決資料の提供と実践開始（沖縄．井口）** ・毎日の学習プリント（学習システム研究会を訂正、DA 化）
2014	・「国立国会図書館デジタル化資料」の名称を「国立国会図書館デジタルコレクション」に変更。（国立国会図書館） ・科学映像を提供開始。（国立国会図書館）	・飛騨おぅらい冊子刊行 ・オーラルヒストリー　亀井俊介パーソナル学問史の記録第３期　1 ・木田宏教育資料研究会（5 月 18 日）（教育基本法、教科書）（沖縄学力の向上） **・デジタルアーカイブを用いた知的創造サイクル資料提供と実践（宮城）**

		・算数デジタルアーカイブ ・学力の向上と新しい教育課題のシンポジウム
2015	・脚本を提供開始。（国立国会図書館）	・デジタルアーカイブ研究所の開設 （2015 年 1 月設置） オーラルヒストリー　亀井俊介パーソナル学問史の記録第 3 期　2 （沖縄の学力の向上） 〇デジタルコンテンツを使い（沖縄の実践） ・過去の資料を活用し、学力向上の課題解決（くり返し学習） 　2013 年当時、全国学力 47 位の沖縄県の平均より下位の A 小学校が、全国 1 位の秋田県の平均点より上へ（尚、800 名中、不登校児 0 名） ・三宅の知の増殖型サイクルモデルの確立 （その後、一般名称として「知の増殖型サイクル」とした） ・三宅の知の増殖型サイクル処理に対処できる DB のメタデータの構成の開発始める ・長良川デジタル百科事典　再構成 WEB サイト公開
2016 H28	・「近代デジタルライブラリー」のサービスを終了し、「国立国会図書館デジタルコレクション」に統合。（国立国会図書館） ・脚本と手稿譜をまとめ、録音・映像関係資料のコレクションを新設。（国立国会図書館） ・新聞（現・石巻日日新聞）と科学映像をまとめ、他機関デジタル化資料のコレクションを新設。（国立国会図書館）	**・飛騨匠の技デジタルアーカイブ開発開始（4 月）** （沖縄の学力の向上） ・知の増殖型サイクル（知的創造サイクル）を活用し、B 小学校では、全科目の全国学力調査が下位であったが、実施後、全科目の平均点上位へ（宮城） （尚、B 校は、要保護、準保護家庭が 47%の経済的に厳しい環境である。） ・沖縄での実践研究をふまえ、知の増殖型サイクルの実現に向けて発生する課題について検討を始める
2017 H29	・我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性 平成 29 年 4 月 デジタルアーカイブの連携に関する 関係省庁等連絡会・実務者協議会 （事務局：内閣府知的財産戦略推進事務局） ・デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン 平成 29 年 4 月 デジタルアーカイブの連携に関する 関係省庁等連絡会・実務者協議会 （事務局：内閣府知的財産戦略推進事務局） ・「知的財産推進計画２０１７」 （2017 年 5 月 16 日知財戦略本部会合決定） 内閣府知的財産戦略推進事務局	**・7 月 22 日　デジタルアーカイブ学会　第 1 回研究大会（岐阜で開催）** **・私立大学研究ブランディング事業「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業」採択（2017-2021）** ・岐阜県安八郡輪之内町輪中関連施設ドローン空撮 ・「沖縄おっらい」を使い、約 10 万名が沖縄を観光。 ・DA 資料保管用のフォルダ形式のデータベースの試行 ・デジタルアーカイブを用いた知的処理　知の増殖型サイクルの開発と利用-学習指導・学力向上の実践に適用-（2017 年 9 月）後藤 ・デジタルアーカイブの利用として、資料提示、課題解決、知的創造を明確化 ・学生研究活動（卒業論文）デジタルアーカイブの開始 （・ポートフォリオの実施）

デジタルアーカイブ年表

2018 H30		・私立大学研究ブランディング事業「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業」として、飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ並びに郡上白山文化遺産デジタルアーカイブを開**始** ・岐阜県安八郡輪之内町　片野記念館　文書撮影 ・卒論、ポートフォリオ（ラーニング）、ティーチングポートフォリオ 　学修支援資料デジタルアーカイブの開発開始
2019 H31 R1		・沖縄学力向上（2 校）のまとめを刊行 　岐阜女子大学・沖縄女子短期大学姉妹校提携記念誌『確かな学習指導で学力向上へ』（沖縄カリキュラム開発研究センター、2019.2） ・岐阜女子大学 　学生の学びの内容・活動の充実と質の保証を求めて「教育資料アーカイブの開発と利用」（2019.3） ・中部国際空港に「飛騨の匠」プレゼン（2019.●月）

※本年表は、 影山幸一 連載【デジタルアーカイブ羅針盤】http://www.infocom.co.jp/das/column/column1/chronology.html より引用し、それに本学の取り組みおよび岐大での開発を加筆したものです。